



ばらのまち福山

「ばら」は、福山市民に最も愛され親しまれてきた花です。
1985年(昭和60年)4月1日には、「福山市の花」に
制定されました。



〔ローズふくやま〕

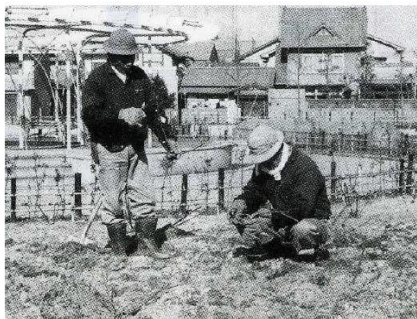
福山市が「ばらのまち」をめざすまでには、どのような歴史があったのでしょうか。

1 ばらのまちづくりの歴史

1945年(昭和20年)8月8日、福山市は空襲を受け、市街地の約8割を焼失しました。亡くなった人は、300人以上にものぼります。

そんな戦争による傷が、まだ福山のまちや人々の心に残る1950年代半ば、「荒廃したまちに潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そう。」を合い言葉に、南公園(現在のばら公園)付近に住む人たちが、ばらの苗約1000本を植えました。

この1000本のばらの苗が、「ばらのまち福山」のスタートなのです。



〔ばらの苗を植える人たち〕



「ばら公園」にある下の碑は、公園を完成させた市民活動の実績が評価され、1967年度(昭和42年度)の「全国美しい町づくり賞」を受賞した記念なんだよ。



この碑から分かるように、1000本のばらに込められた「福山のまちに潤いを、人々の心に和らぎを」という善意が、ばらとともに花開き、ばらのまちとして全国に認められたのです。